

魔法の言葉 プロジェクト 活動報告書

報告者氏名: 石坂 祐輔

所属: 目黒区立五本木小学校 (巡回校: 目黒区立上目黒小学校)

記録日: H30 年 2 月 19 日

キーワード: 学び方、コミュニケーション、表現、作文、思考の整理

【対象児の情報】

・学年

- ・通常学級第 4 学年男児 特別支援教室利用 (自校通級)

・障害と困難の内容

- ・興味関心の薄いものや苦手意識のあることには取り組みにくく、結果的に不適切と思われる行動につながってしまう。
- ・自由度の高い学習課題や活動の見通しがもちにくい場面では、集中が途切れてしまうことがある。
- ・友達と関わりたい気持ちはもっているが、共通の話題や趣味などからきっかけを作ることが困難である。

・障害名

- ・その他 (自閉傾向あり)

【活動目的】

・当初のねらい

- ①自分の考えを整理したり、表現したりする力を養う。
- ②得意なことを生かして友達と関わったり、認めてもらったりする経験を積む。

・実施期間 2017 年 5 月～2018 年 2 月 (現在)

・実施者 石坂 祐輔 共同研究者: 田口 道 (大田区立山王小学校)

・実施者と対象児の関係 本児童が自校通級している特別支援教室巡回指導教員

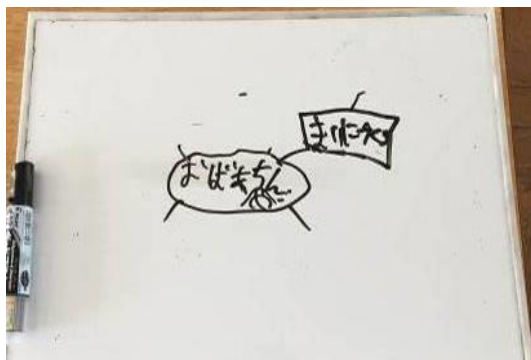
【活動内容と対象児の変化】

・対象児の事前の状況

- ・特別支援教室 (在籍校での通級指導) での指導時数
計画時: 週 3 日 3 時間指導 (2 時間は、異学年との小集団指導)
現在: 週 3 日 3 時間指導 (変更なし)
- ・学習支援員週 2 時間配置 (主に国語・算数の学習参加支援)
- ・自由度の高い質問や活動における見通しのもてなさが、不適切な行動につながる事が考えられる。
- ・古生物・元素周期表について非常に関心が強く知識が豊富である。
- ・昨年度より自分の考えを表現することに困難が見られ、今年度の特別支援教室での学習で思考の整理や表現について改善できることを本人も保護者も希望している。
- ・4 年生進級時の本人の特別支援教室への要望 (保護者からの聞き取りアンケート) は、「友達にばかにされたり、友達をばかにしたりしたくない。」と記載があった。不適切な行動や自分の趣味・嗜好のズレから友達関係での悩みを抱えていた。
- ・古生物や元素周期表に強い興味をもっており、博識であるが、他に同じような趣味をもつ友達がいないため、これまで友達と共通の話題にして楽しむ機会に恵まれなかった。
- ・昨年度、「魔法の種」の実践事例参加児童とは、1 年生から同じ学級に所属しており、2 年生から 2 人とも拠点校指導型通級指導学級 (目黒区五本木小学校「ゆりのき」) に通っており、昨年度から共に巡回指導型通級指導学級 (目黒区上目黒小学校「たけのこ教室」) に切り替えている。

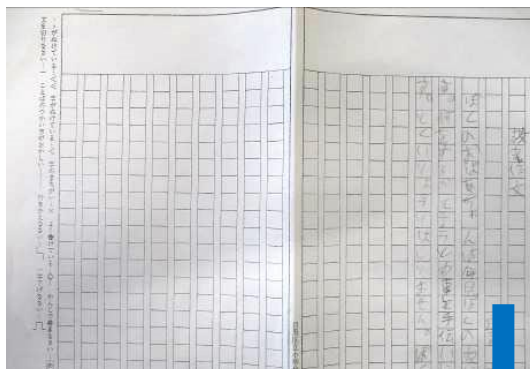
- ・個別指導では、主に「自分に合った思考を整理するための方法を見つけ、実践できるようにする。」ことをねらいとしている。
- ・小集団指導では、「得意なことを生かして友達と関わり、良好な関係を築く。」ことをねらいとしている。

ねらい①に関連して



5/11

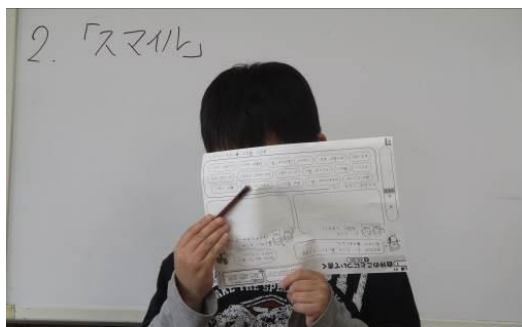
ホワイトボードでのマインドマップ作りに挑戦するが、15分間でこまでの成果だった。「書きたいことはあるんだけどね。」とつぶやく。



5/11

『敬老作文』に取り組み、原稿用紙と向き合うが、20分間悩んで書けたのは、3行だった。

ねらい②に関連して



4/18

新年度、友達の前に立ち自己紹介をする様子。顔を隠して該当箇所を指差し、紹介を終えようとする姿もあった。



5/2

今年度から始まった年下の友達との小集団指導では、得意な元素周期表への質問を受け、一生懸命説明する姿が見られた。

・活動の具体的内容

ねらい①「自分の考えを整理したり、表現したりする力を養う。」を達成するために

→活動 「Simple Mind+」を活用した思考の整理

対象児（A さん）は、作文や学習の感想など「自分の考えを文章で表すこと」が苦手であったため当初は、ホワイトボードを使って考えを整理しようと試みた。しかし、あまり効果が得られなかったため「Simple Mind+」のアプリを活用し、自分なりの思考の整理方法の獲得と考えの視覚化を図った。

Simple Mind+



ねらい②「得意なことを生かして友達と関わったり、認めてもらったりする経験を積む。」を達成するために

→活動 得意なことを生かした友達との交流

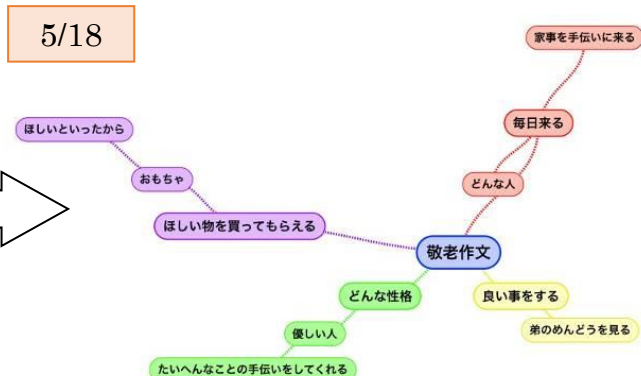
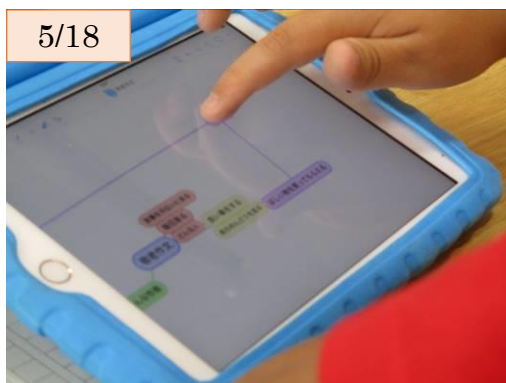
小集団指導を組む年下（通常学級小学2年生）の友達（B さん）が、対象児が専門的な知識をもっている「古代生物」「元素周期表」に興味をもち、対象児は質問に答える「質問コーナー」がスタートした。その後、B さんも「(A さんに自分の好きなものを) 知ってもらいたい。」と話し、お互いに好きなものを紹介し合う「情報タイム」という時間を設けることとなった。

・対象児の事後の変化

活動「Simple Mind+」を活用した思考の整理

（1）「敬老作文」の取り組み

自分の祖母に対する想いは、頭の中にあるもののそれを言葉や文章にして書くことが難しい様子であった。ホワイトボードにマインドマップを書き始めたが悩みに悩んで書いたのは、「毎日来る」（2P ねらい①に関連して写真参照）という事のみであった。その後、原稿用紙に向かったものの初めに書けたのは、3 行であった。



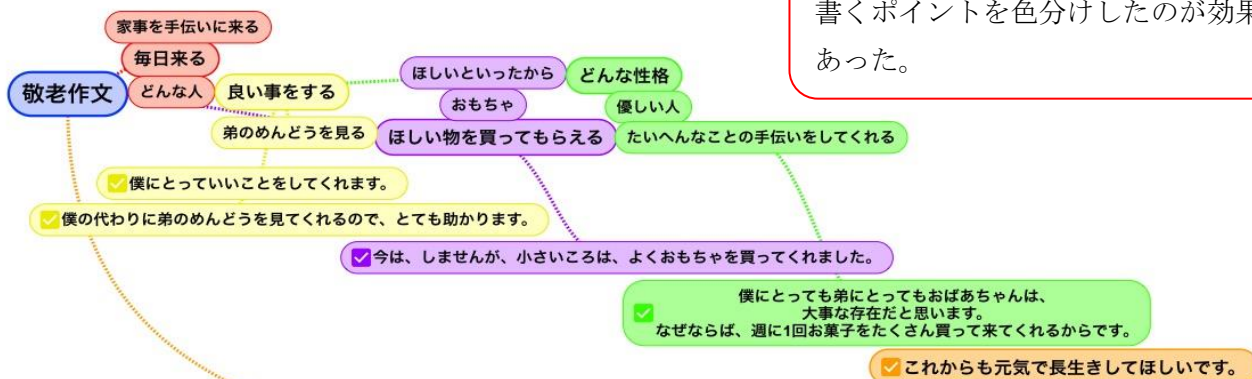
「書きたいことは、あるんだけどねえ…」という児童に iPad でマインドマップを作成することを勧めたところ「すごい！これは魔法の道具だ！」と目を輝かせて次々と言葉を打ち込んでいくことができた。マインドマップで自分の書きたい文章が出来上がると、画面を操作して書く順番通りに並び変え、チェックボックスを付けることで、「次は、これ（文章）を書けば良いんだね。ミッションみたいだ。」と話し、アプリの機能を最大限に活用して学習課題と向き合いながら自らの課題について改善の手応えを感じたようであった。

すごい！これは、魔法の道具だ！



敬老作文を書くためのマインドマップ

書くポイントを色分けしたのが効果的であった。

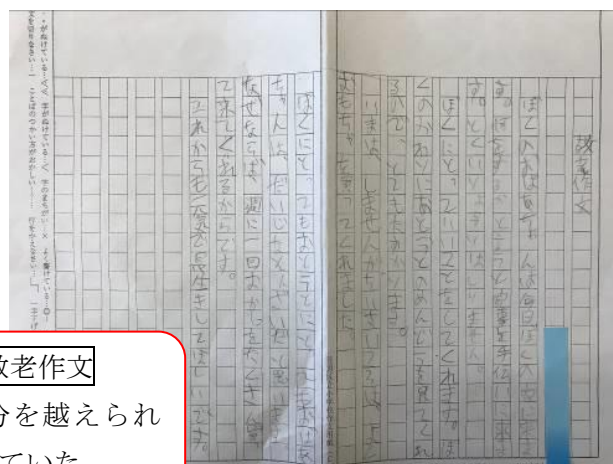


そうそう、こう言いたかったんだ。
便利だなあ。



完成した敬老作文

原稿用紙の半分を越えられたことに満足していた。



(2) 宿泊行事を終えての感想（まとめの新聞）とお礼の手紙の取り組み

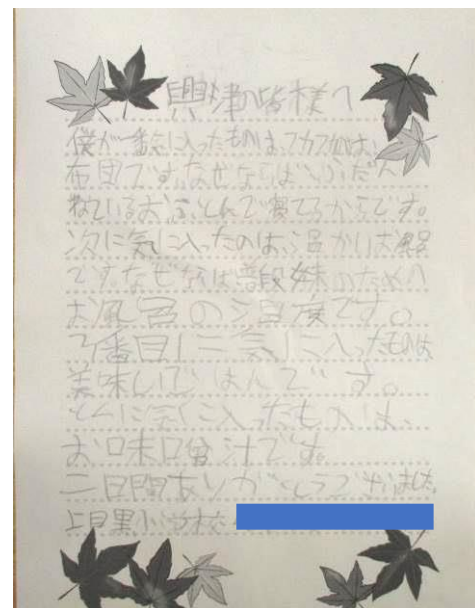
10月は、小学校生活初めての宿泊行事を終えてからの学習課題として「まとめの新聞」と「施設の方へのお礼の手紙」が出された。苦労が予想されたが、「まとめの新聞」については、「パソコンで作ったよ。」と在籍学級の1時間のみで自力でまとめることができていた。新聞は、写真も使って仕上げており、本人は「パソコンだったから簡単だったよ。」と話していた。もう1つのお礼のお手紙については、白紙を持って特別支援教室に来室したため、どのように取り組むかを相談したところ本人から「iPadを貸してほしい。」との申し出があった。理由を聞いてみると

①自分が、書きたい言葉がすぐに出てくる。(予測変換機能による言葉の視覚化)

②鉛筆や消しゴムを使わないから。(文章の修正・追加のしやすさ)

と本人なりのiPadを活用する便利さを挙げる事ができた。実際に使ってみると、自分でお礼のポイントを3点挙げそれらの点について詳しい内容を追加することで感謝の気持ちを文章にすることができた。それを用紙に写すことで学習課題を達成することができ、本人も満足そうであった。

①

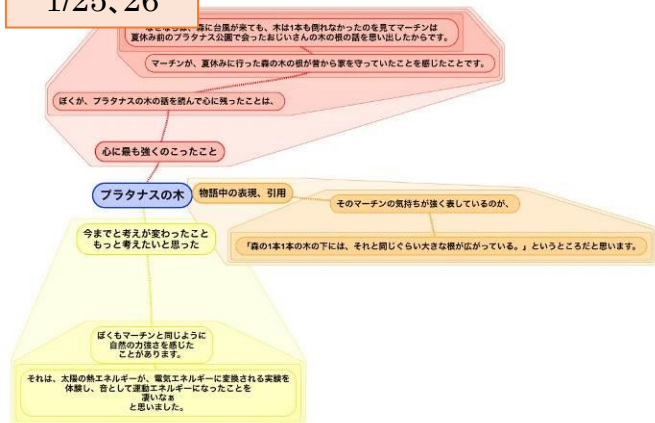


最後の行までびっしりと書くことが
でき、本児も「ぴったりだ！」
と嬉しそうであった。

学級担任の先生に本児の授業での様子を聞いたところ「1番心に残った科学館の見学について自分で科学館のHPを見ながら必要な情報を探して、黙って一人で作っていた。文章は、特に手伝うこともなく打ち込んでいた。」と教えてくださった。

1月に入り、教室からの学習課題として国語の『プラタナスの木』を読み感想文を書くこととなった。原稿用紙が届くと、Aさんは思わず顔をしかめたが、すぐに「(iPadを)貸して!」と言い、「これ(iPad)が、あれば大丈夫。話は、覚えているし。」と気持ちを切り替えて取り組むことができた。初めての得意分野ではない読み物教材での「書く課題」であったが、教室で読んだ話を思い出しながら「自分の心に強く残ったこと」や「主人公と似たような経験」についても次々とマインドマップに打ち込んでいくことができた。その日のうちにマインドマップを元に感想文の完成まではできなかったが、翌日改めて原稿用紙に書いて提出することができ、本人も満足そうであった。特別支援教室での学習の最後に感想を聞いてみると「俺、(作文を書くことが)得意になったかも。」と言って教室に帰っていった。

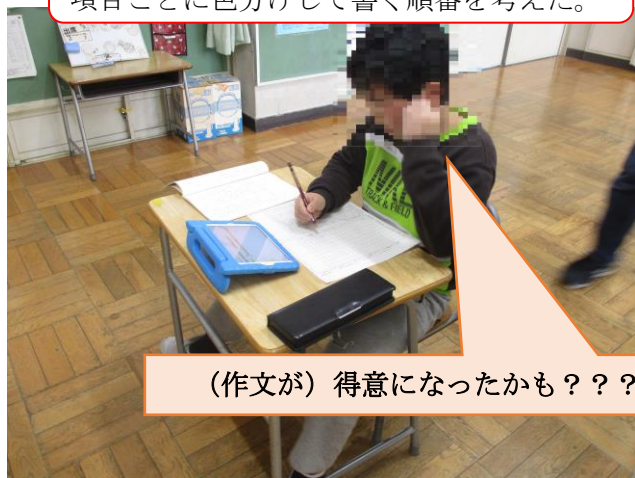
1/25、26



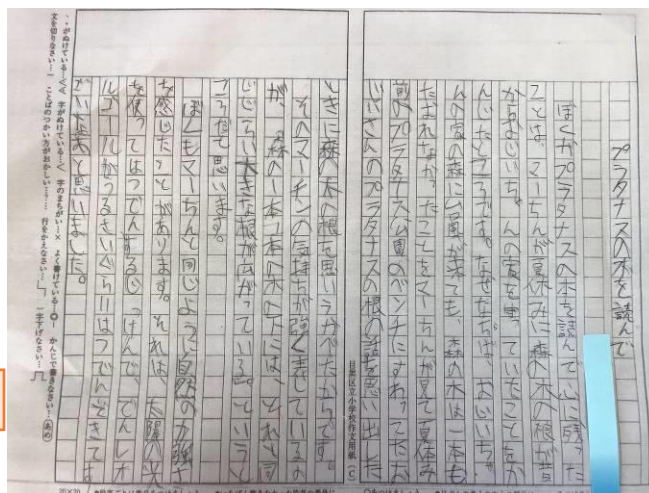
iPad があれば、(文章化が) 楽なんだ。



感想文を書くためのマインドマップ
項目ごとに色分けして書く順番を考えた。



(作文が) 得意になったかも???



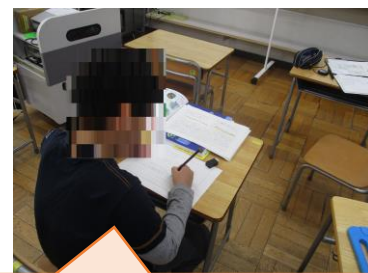
『プラタナスの木』感想文

原稿用紙の最後の行まで書くことができた。
思わず、「(作文が) 得意になったかも」と話していた。自分でも 2 日間に分けて集中を継続し、完成できたということを味わうことができ、大満足で学習を終えた。

活動 得意なことを生かした友達との交流

(1) 古生物図鑑の取り組みの取り組み

本児の得意分野である古生物の知識を生かして「古生物図鑑」を作り、友達と交流を図るツールとして活用した。(出来上がったものは、特別支援教室内に掲示) 図鑑を作り始める際に「どんなことを伝えるか」について指導者と話し合い「名前・生きた時代・食べ物・大きさ・見つかった場所」という観点を挙げた。これは、A さんが古生物を研究する上で重要だと感じているものであり、これらを知っておくとその時代背景を理解するのにつながると熱く語っていた。



次は、オパビニアにしよう。

最初の1枚は、指導者とともにマインドマップを作り、記入していったが、3枚目以降は、自力で図鑑を見たり、以前に自分が書いたものを確認したりしながら記入することができた。出来上がったものを特別支援教室



内に掲示したことから、それを見た小集団指導を組む児童（Bさん）から質問され、それ以降Bさんのために「今度は、この生き物にしよう。」とより意欲的に作品作りに励んでいた。（大体週に1枚のペースで作成し、これまでに20ページ作っている。）今年度の終わりには、1冊の図鑑になるように加工する予定になっている。

友達に見てもらえることが、モチベーションを高めることにつながっている。

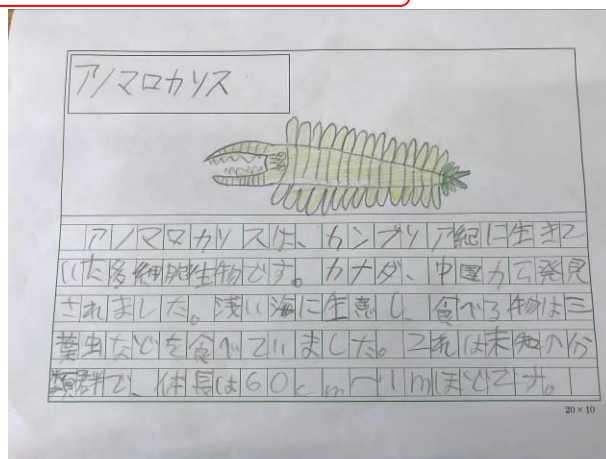
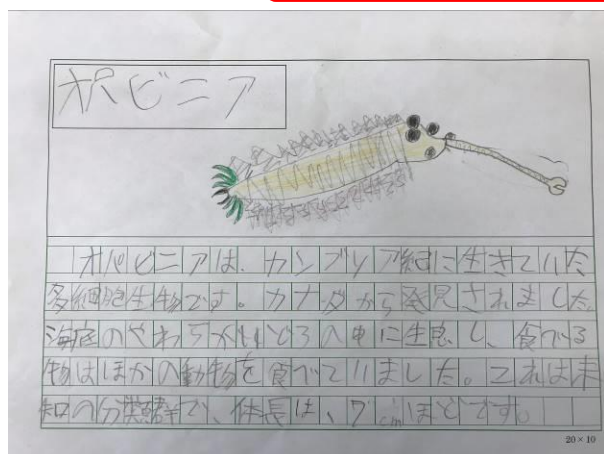
（2）質問コーナーの取り組み

古生物と同様に児童が非常に興味をもっている元素周期表についても、Bさん向けにミニ講義や小集団の日に「質問のコーナー」を設け、児童が活躍できる場を作った。児童には、「自分の話したいことを相手に分かるように話す。」というめあてをもってミニ講義や質問コーナーに臨むように指導した。他の児童が、元素周期表の詳しく聞きたい内容について事前に付箋を貼っておくことにしているため本児は特別支援教室にやってくるとすぐに元素周期表の付箋を確認し、「これを知りたいのかあ。」と嬉しそうな表情を浮かべていた。次に質問をしている児童に会う日を楽しみにしており、当日はすぐに元素周期表の前に友達を誘い、丁寧に説明している様子が見られた。友達との共通の話題が見つかったことを喜び、また「自分の好きなことを誰かに語る」ということに非常に満足感を得ている様子であった。



Bさんと元素周期表を見ながら説明するAさん

本児が作成した「古生物図鑑」



（3）質問コーナーから「情報タイム」へ

Aさんが主導となって元素周期表についてBさんからの質問に受け答えする「質問コーナー」であったが、夏休みが明けた頃からBさんが「僕もAさんのように（iPad）を使ってみたい。（考えをまとめ、図鑑を作りたい。）」と話すことがあった。Bさんの具体的な取り組みとして「僕の好きなアニメをAさんに教えてあげたい。」と話したことからAさん、Bさん共に自分の得意分野（Aさんは、（1）「古生物図鑑」を活用）についての発表を行うこととなった。そこで、「質問コーナー」を「情報タイム」と改めて行っていくこととし、Aさん

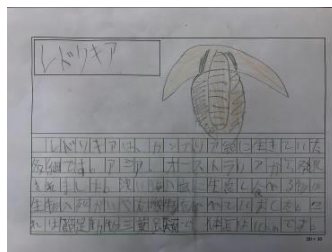
からの発表だけでなく、Bさんからの発表が加わり、双方向の活動となった。お互いの得意分野について話したり、聞いたりすることでそれぞれの内容について関心をもち、興味の幅を広げていくことができた。お互いの発信を十分に受け止めることで2人の信頼関係が深まった。

「情報タイム」の流れ

①発表する内容を決め、資料を作る。



②発表する



③質問や感想を伝える。



【報告者の気づきとエビデンス】

・主観的気づき

ねらい① 自分の考えを整理したり、表現したりする力を養う。

☆マインドマップを作成することにより、自分なりの思考の整理方法を獲得したのではないかな。

・特別支援教室での「文章を書く課題」に取り組んだエピソードから

「古生物図鑑」については、Aさんの得意分野であることからマインドマップを使わずに自分の考えをまとめ短い時間で具体物に表すことができた。Aさん自身も得意分野の課題については、「書くことも決まっているし、大丈夫。」と自信をもっていた。

また、在籍学級や特別支援教室から与えられた「文章を書く課題」について必ずマインドマップで考えをまとめ、具体物に反映させることを望んだ。マインドマップ作りは、最大15分間と決めて取り組むことで集中して書く言葉を整理した。Aさんは、何度か「Simple Mind+」を活用していくうちに予測変換機能の便利さを感じたり、チェック機能や項目ごとの色分けなどの機能を使ったりしながらAさんなりに使いやすくマインドマップをカスタマイズした。

・表1「マインドマップを活用した学習内容と所要時間・具体物の字数の変容」から（10Pエビデンスより）

「古生物図鑑」については、具体物に表す時間も回を追うごとに短くなっており、字数も毎回マスの限界（100字）まで書こうとする意識が芽生えた。

在籍学級や特別支援教室から与えられた「文章を書く課題」については、年度当初の『敬老作文』については、45分間教室で悩んでしまい、1文字も書けずに終わったことから特別支援教室で「書く課題」についての支援が始まった。マインドマップ作りについては、所要時間が安定していったが、具体物に表すことには慣れるまでには、時間を要した。しかし、1月の『プラタナスの木』感想文については、2日間に分けて取り組み、マインドマップ作りにも時間を要したが、自分の力でマインドマップを完成させ、原稿用紙に向かうことができた。出来上がった具体物についても5月の『敬老作文』と比べ、より短い時間で同じ程度の量を書くことができた。

・ A さんの iPad によるマインドマップ作成に対する発言から

回を追うごとにマインドマップ作りが定着した A さんであったが、iPad でのマインドマップを活用することの便利さについて聞いてみると「予測変換で言葉がすぐに出てくることが良い。」「鉛筆も消しゴムもいらなくて使いやすい。」「(チェック機能や色分け機能が) ミッションみたいで書く順番もわかる」などと A さんなりに思考の整理の仕方について手応えを感じていた。

ねらい② 得意なことを生かして友達と関わったり、認めてもらったりする経験を積む。

☆得意なことを生かした友達との交流から信頼関係を築き、興味の幅を広げることができたのではないかな。

・「情報タイム」に至るまでのエピソードから

共通の話題をもつ B さんとの関わりが質問コーナーという自分の得意なことを生かせる活動を生み出した。A さんの「B さんの質問に答えたい、わかるように説明してあげたい。」という気持ちが、相手意識をもった説明の工夫につながった。また、そのような A さんの行動を見て、B さんも「A さんに自分の好きなことを伝えたい。」という意識が芽生え、双方向の活動である「情報タイム」へと変化した。

・表 2 『情報タイム』における相手を意識した回数」から (10P エビデンスより)

「情報タイム」での A さんの発表の様子や B さんの発表を聞いている様子を動画撮影した。数値については、表 2 に記載の通りの観点で回数をカウントした。当初は、発表資料に視線が固定されがちであったが、徐々に B さんを見ながら説明することができた。また、B さんの発表が A さんの見たことのないアニメのキャラクターの紹介であったため、A さんは聞いてもキャラクターのイメージが沸かない様子があった。そこで、A さんと B さんが考えたのが、共通の話題に「置き換えて解釈する」という方法であった。A さんの知らない分野についても知っている分野に置き換えて説明をすることで A さんも興味をもつことができ、情報タイムでのコミュニケーションが活発になった。回を重ねることで、A さんからの質問も B さんの紹介に沿った内容になり、少しずつ共通の話題となっていく。

・ B さんから見る A さんとの関係から

A さんと B さんの小集団指導は、今年度から始まった。B さんは、元素周期表についての質問に丁寧に答えてくれたり、小集団指導で声をかけてもらったりすることで A さんを信頼している。A さんも B さんを「弟みたいなんだよね。」と可愛がり信頼関係を築いた。B さんの今年度の特別支援教室での学習を振り返る作文には、「A さんとの情報タイムで、たくさん話を聞けたし、たくさん紹介ができた。」と記してあり双方向の活動になったことで A さんの興味の幅が広がり、得意なものを生かした交流となった。

【エビデンス】(具体的な数値など)

ねらい①自分の考えを整理したり、表現したりする力を養う。

表1 マインドマップを活用した学習内容と所要時間・具体物の字数の変容

得意分野の課題(古生物図鑑)				在籍級・特別支援教室から与えた文章を書くことを要する課題					
月日	マップ	字数	時間(分) (具体物)	月日	内容	マップ	時間(分) (マップ作)	字数	時間(分) (具体物)
4/27	なし	76	13	5/10	敬老作文(在籍級)	なし	×	0	45
5/19	あり	100	18	5/11	敬老作文	なし	×	20	25
6/15	なし	95	11	6/1	敬老作文	あり	15	360	15
6/22	なし	99	12		敬老作文 総時間・字数		15	380	85
7/13	なし	97	13	6/15	小集団活動 説明原稿	あり	14	209	28
10/24	なし	100	12	9/7	小集団活動 説明原稿	あり	15	171	14
11/28	なし	100	8	9/22	おススメの本 紹介文	あり	13	55	15
11/30	なし	98	6	10/26	宿泊施設へのお礼状	あり	14	166	12
12/14	なし	99	7	10/30	宿泊体験まとめ新聞 (在籍級での取組)	なし	×	321	45
12/19	なし	99	11	11/16	感謝の手紙	あり	15	182	15
1/18	なし	100	8	12/1	小集団活動 説明原稿	あり	15	164	15
1/23	なし	100	9	1/23	雪遊び感想	なし	×	116	15
1/25	なし	94	6	1/25	『プラタナスの木』感想文	あり	12	180	8
1/30	なし	96	9	1/26			14	211	12
2/6	なし	100	8		『プラタナスの木』感想文 総時間・字数		26	391	20
2/8	なし	98	9						

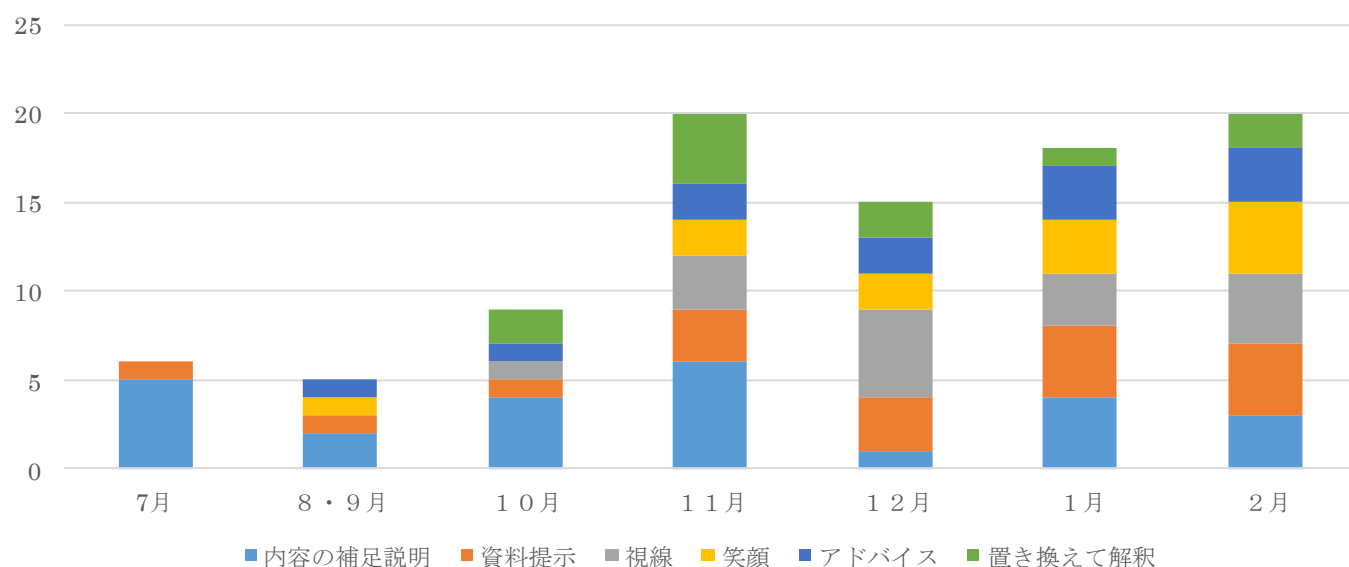


このテーマは、簡単だから楽勝！(1/23)

(原稿用紙半分を超え)意外と書けたね。(1/25)
やるやる！あとちょっとだもん。(1/26)

ねらい②得意なことを生かして友達と関わったり、認めてもらったりする経験を積む。

表2「情報タイム」における
相手を意識した回数



・その他エピソード(画像などを含めて)

大丈夫だよ。すぐ助けに行っていくから



Bさんとの信頼関係

Bさんが在籍学級からの学習課題（米の数を数える）に苦戦している際に横で古生物図鑑を書いていたAさんが、Bさんに声をかけ、自分の学習課題を終えると積極的に手伝ってあげることができた。数の多さにすっかりやる気を失いかけていたBさんであったが、Aさんから励ましの言葉をかけてもらい最後まで数えることができた。

休み時間におけるAさんの変化

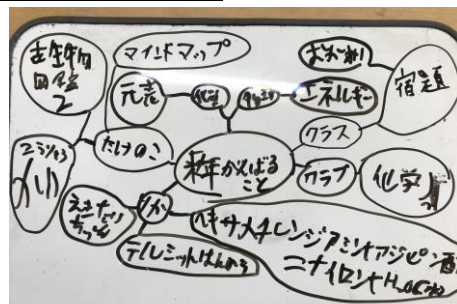
休み時間は、教室で過ごしていたり、気の合う数人の仲間と校庭で過ごしていたりすることの多かったAさんだったが、この日は、多くの同学年の友達に混ざってサッカーに参加していた。体を動かすことも苦手であること、在籍学級で人気があることも自覚しつつもこれまで参加することがなかったサッカーだったが、一生懸命にボールを追いかけてゴールを守る担任の先生を目標にシュートをしていた。今後も興味の幅を拡げ、多くの友達との関わりの輪が広がることを願っている。



・今後の見通し

・獲得した自分なりの思考を整理する方法を、必要な時に用いることができるようにしたい

Aさんは、マインドマップを使って学習課題に取り組むことに自信をもつことができた。Aさんにとっては、iPad上でマインドマップを作成して操作することが一番効果的であるが、今年度の貸与期間終了に伴いiPadが使えない状況になったとしても必要な時にホワイトボードやノートなどにマインドマップを描いて自分の考えを整理し、学習課題に向き合えるような手立てをとっていこうと考えている。



「来年度頑張ること」についてのマインドマップ

・「書く」課題についての頑張る機会を増やしたい

「書く」課題については、全般的な苦手意識をもっていたAさんであるが、先日の特別支援教室では、「漢字（書き取り）をやるんだ！」と意気込んで漢字ドリルとノートを広げ取り組むことができた。「書く」課題に対する苦手意識を少しずつでも払拭できるよう在籍学級や家庭との連携をこれまで以上に深め、頑張りを認められる機会を増やしていきたい。



一生懸命、漢字ドリルに向き合うAさん

・様々な友達と関わり興味の幅を広げてもらいたい

Bさんとの交流を通して特別支援教室に通う友達との親交はより深めることができたと感じている。Aさん自身もこれまで関心のなかったことについても少しずつ興味の幅を広げ、それが友達との信頼関係作りにつながることを実感しているようである。来年度の特別支援教室では可能な限りメンバーを変えて異学年での小集団指導を継続し、自分の興味が極めるだけでなく、友達に関心をもち、友達の輪を広げていってもらいたいと考えている。また、その信頼関係を通して在籍学級での活動へとつながる手立てとしていきたい。



特別支援教室の友達と写真を見て談笑